

第2回行政評価委員会(7/12)における各施策に対する回答一覧

資料8

【事前質問:36件 第1回委員会で出された質問:4件】
令和6年7月5日時点

NO	取組番号・取組名	質 問	回 答	担当部署
① 7/12 ヒアリング	6 学校教育の充実	ICT機器を用いた学習の質の向上が、遅れているように見える。先生方への研修、ガイドラインやマニュアルなど、負担減の方策はとっているか。いじめを減らす取り組みについて、方策を教えてください。将来の夢や目標について、キャリア教育は進んでいるか状況を教えてください。	<p>ICT機器の活用について、マニュアルや使用方法についての動画などを教員のタブレット端末や校務で使うPCに掲載しています。今後も直感的に理解できるようなガイドシートを作成し、教職員の使用の幅をさらに広げられるように工夫していく予定にしております。また教職員の研修については、令和5年度、夏季特別講座などで20回290名が受講してスキルアップに取り組んでいます。今後さらなる研修の充実に向け、ICT支援員を含む研修所員が学校を訪問した際に、学校や教員の困り感や習得したいスキルなどを聞き取り、学校や教員のニーズに応じた研修をアウトリーチ型も含め効果的に実施してまいります。</p> <p>いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得る問題との基本姿勢のもと、一人でも多くの子どもをいじめから救うために、子どもを取り囲む大人一人一人が、「いじめ見逃しゼロ」の意識を持ち、法に基づくいじめ対応を行う事が重要と考えています。いじめ事案の対応にあたっては“学校いじめ対応チーム”で方針を定め、保護者と連携しながら再発防止に向けた支援を行う事を重視しています。また、子ども達が主体となって、いじめを許さない風土づくりに取り組むことも重要です。そのため、教職員向けの研修を充実させるとともに、市内の生徒会が中心となって作成した統一スローガン「見逃すな、いじめの芽!咲かせよう、笑顔の花」に基づいた取組を推進するよう啓発にも取り組んでいます。</p> <p>キャリア教育については、兵庫版「キャリアパスポート」を活用し、小・中・高をつなぐキャリア教育の充実に取り組んでおり、子ども達が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返りを返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオとなるように工夫をし、子ども達が進級・進学する際にこのパスポートを引き継ぐようにしており、小中学校では学習した内容や資料をまとめた「キャリアノート」として活用する例もあります。</p>	学校教育部
② 7/12 ヒアリング	6 学校教育の充実	成果指標のいじめの件数ですが、ほぼ横ばいとなっています。SSWの配置もそうですが、教員の多忙化等もあるので、対策の工夫が必要ではないでしょうか。SSWや特別支援co.などはいじめ認定があった学校に重点的に配置されているのか、要望があった学校に配置されているのかをお伺いします。	<p>いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得る問題です。そのため、いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時、子ども達が気軽に相談できる環境作りや、子どもたち自身がSOSを発信できる取組について、引き続き推進してまいります。特に、正しい子ども理解に基づく“聞き取り”は重要です。R5年度は京都教育大学の片山教授による「聞き取り方」の研修を行っています。</p> <p>SSWの配置につきましては、全中学校に配置するとともに、各中学校区の小学校の事案にも中学校に配置したSSWが対応するようにしています。いじめ認知はどの学校でも行っており、学校から相談要請を受け市教委が指導助言等を適宜行うようにしています。また、緊急な対応が必要なケースにおいては、SCやSSWを緊急派遣して対応するようにしています。なお、各校の特別支援コーディネーターは、正規の経験豊富な教員がその役割を担っており、いじめのケースにより協力して対応にあたるようになっています。</p>	学校教育部
③ 7/12 ヒアリング (第1回委員 会で出され た質問)	6 学校教育の充実	三田をよりよいまちにしていくためには、学生間(小・中・高・大)の連携が必要と考えますが、市の考えをお伺いします。	<p>若者や子どもたちに、「三田が大好きで三田に住み続けたい」と思ってもらうためには、自分のやりたいことが実現できたり自由にチャレンジできる環境と、自分がどんな生き方をしたいのか、人生やキャリアを考えることが当たり前の環境を作る必要があると考えます。</p> <p>そのために、地域と一緒に小・中学生・高校生向けに「探究」をテーマに実施する「こうみん未来塾」や、企業にご協力いただき大学生向けに「地域活躍」をテーマに実施している「スモカモプロジェクト」が、少しずつリンクして連携し、「三田の子は小学生から大学生まで活躍の場がある」という環境を作ることが大切だと考えます。</p>	総合政策部 学校教育部
④ 7/12 ヒアリング	17 観光・交流・文化の振興	文化財施設のプログラムについて、こうみん未来塾など他施策との連携の状況を教えてください。	<p><u>指標3(文化スポーツ課)</u></p> <p>文化財施設の企画展示・講座・体験学習等のソフト事業は、NPO法人歴史文化財ネットワークさんに委託し実施しており、こうみん未来塾事業のさんだサイエンスフェスティバルでの勾玉・土器づくりや松が丘小学校での三田の偉人についての講義、さんだまち博では赤心社のゆかりの地のウォーキングを行っています。</p>	市民生活部

<p>⑤ 7/12 ヒアリング (第1回委員会 会で出され た質問)</p>	<p>17 観光・交流・文化の振興</p>	<p>市外から観光客を呼び込む施策も大切ですが、市民が市内を楽しむ「内需観光」も大切です。内需観光を増加させるための取組みについてご教示ください。</p>	<p>三田市観光ビジョンにおいて、「三田市は観光振興において、多様な市民などが、自ら地元の暮らしの中にある魅力に気づき楽しみ、自然・文化・歴史・産業・人材など、地域のあらゆる資源を生かすことによって市内の交流を促進し、活力あふれるまちを実現するための活動である『観光まちづくり』を実践するものです。」と掲げております。 そして、観光ビジョンを実現する取組みの一つとして、「さんだまち博」を毎年実施しており、多くの市民にも参加いただいています。 (参考) 令和5年度さんだまち博アンケート 回答者:335人(内三田市民209人 62.4%)</p>	<p>産業振興部</p>
<p>⑥ 7/12 ヒアリング</p>	<p>18 まちの再生</p>	<p>まちの再生に取り組むにあたり、人口減・高齢化をどのように捉え、再生されようとしているのですか。</p>	<p>人口減少、少子高齢化が急激に進行していくなか、市街地の低密度化、農村集落の衰退が予測されることから、都市機能及び地域コミュニティの維持、まちの賑わいと活力の創造に向けた土地利用を推進していきます。</p>	<p>都市整備部</p>
<p>⑦ 7/12 ヒアリング (第1回委員会 会で出され た質問)</p>	<p>18 まちの再生</p>	<p>三田駅前周辺エリアの賑わいにあふれる空間の創出に向けた取組みとして、市の特色をどのように活かして進めようとしておられるのか、今後の展望についてご教示ください。</p>	<p>三田駅前周辺エリアの賑わいにあふれる空間の創出に向けては、再開発事業により整備される駅前を中心に、居心地の良さや、人とのふれあい、魅力的な体験ができる持続可能で多様性に富んだ、ウォークアブルなまちづくりを目指した取組みを進めます。 今後の展望としては、以前から行われているキッピースクエアや駅前通りでのイベント開催に加えて、本市の特色としてあげられる三田駅周辺に残る古民家や旧九鬼住宅などの歴史的な地域資源や武庫川の河川空間を、まちの魅力と価値の向上に資する賑わい拠点として活用し、将来的には駅周辺にも人が呼び戻せるようなイベントの展開やインフラの整備(既存道路の改修や都市計画道路の整備)を進めていきます。</p>	<p>都市整備部</p>